

# 文化プログラムの実施について

平成29年3月

文 化 庁

# 文化プログラムの位置づけ

## ◆「オリンピック憲章」

●オリンピズムは、人生哲学であり、肉体と意思と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツを文化と教育と融合させることで、オリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。(根本原則)

●オリンピック競技大会組織委員会は、短くともオリンピック村の開村期間、複数の文化イベントのプログラムを計画しなければならない。このプログラムは、IOC理事会に提出して事前の承認を得るものとする。(第5章・第39条)

## オリンピックにおける文化的要素の変遷

第1回アテネ～第4回ロンドン 〔1896～1908年〕	文化的要素無し
第5回ストックホルム～第14回ロンドン 〔1912～1948年〕	芸術競技の時代 ～スポーツを題材とした建築、彫刻、絵画、音楽、文学の作品がメダルを争う～
第15回ヘルシンキ～第24回ソウル 〔1952～1988年〕	芸術展示の時代 ～開催国の芸術を中心に展示～
第25回バルセロナ～ 〔1992～〕	文化プログラムの時代 ～芸術の展示にとどまらない多彩なプログラムや行事を実施～
第30回ロンドン～ 〔2012～〕	文化プログラムの新時代へ突入 ～大規模な文化プログラムを開催都市ロンドンにとどまらず英国全土で展開し、さまざまなレガシーをもたらす～

# 文化プログラムに関する政府方針について

## 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）（平成27年5月閣議決定）（抜粋）

2020年東京大会は、我が国の文化財や伝統等の価値を世界に発信するとともに、文化芸術が生み出す社会への波及効果を生かして、諸課題を乗り越え、**成熟社会に適合した新たな社会モデルの構築**につなげていくまたとない機会。

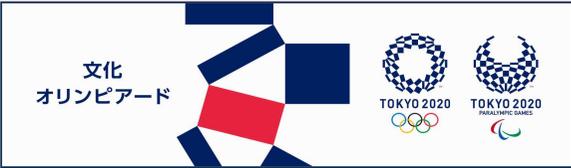
文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地域の文化を体験してもらうための取組を全国各地で実施する。リオ大会（2016年）の終了後に、オリンピック・ムーブメントを国際的に高めるための取組を行い、文化プログラム実施に向けた機運の醸成を図る。

## 2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針2015（抜粋）

大会はスポーツの祭典のみならず文化の祭典でもある。日本には、伝統的な芸術から現代舞台芸術、最先端技術を用いた各種アート、デザイン、クールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、メディア芸術、ファッション、地域性豊かな和食・日本酒その他の食文化、祭り、伝統的工芸品、和装、花、さらには、木材・石材・畳等を活用した日本らしい建築など、多様な日本文化がある。

文化プログラムの推進も含め、こうした多様な文化を通じて日本全国で大会の開催に向けた機運を醸成し、東京におけるショーウィンドウ機能を活用しつつ、日本文化の魅力を世界に発信するとともに、地方創生、地域活性化につなげる。

# 東京2020大会に向けた文化プログラムの枠組

	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会		文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議
	<b>東京2020文化オリンピックアード</b>		<b>beyond2020 プログラム</b>
プログラム	<b>東京2020公認 文化オリンピックアード</b>	<b>東京2020応援 文化オリンピックアード</b>	
概要	<p>「<u>オリンピック憲章</u>」に基づいて行われる公式文化プログラム</p> <p>東京大会の主なステークホルダー等が大会ビジョンの実現に相応しい文化芸術性の高い事業を実施</p>	<p>「<u>オリンピック憲章</u>」に基づいて行われる公式文化プログラム</p> <p>非営利団体等がオリンピック・パラリンピックムーブメントを裾野まで広げる事業を実施。</p>	<p>2020年以降を見据え、レガシー創出に資する文化プログラム</p> <p><b>営利・非営利を問わず多様な団体が実施。</b></p> <p>※オリンピック・パラリンピックの文言使用は不可</p>
実施主体	組織委員会、国、開催都市、会場所在地地方公共団体、 <u>公式スポンサー</u> 、JOC、JPC	会場所在地以外の地方公共団体、 <u>独立行政法人を含む非営利団体</u>	文化オリンピックアードの実施主体に加えて、 <u>公式スポンサー以外の企業も対象</u>
ロゴマーク			

# 各プログラムの認証要件

## 東京2020文化オリンピック

大会ビジョン、文化オリンピックのコンセプトを実現する事業内容かどうか総合的に審査

### 【大会ビジョン】

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

### 【文化オリンピックのコンセプト】

日本文化の  
再認識と継承・発展

次世代育成と  
新たな文化芸術の  
創造

日本文化の  
世界への発信と  
国際交流

全国展開による  
あらゆる人の  
参加・交流と  
地域の活性化

## beyond2020プログラム

日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、共生社会、国際化につながるレガシーを創出する取組かどうかを審査

### 【必須要件】

日本文化の魅力を  
発信する取組

+

障害者にとってのバリアを  
取り除く取組

又は

外国人にとっての言語の  
壁を取り除く取組

# 実施主体別の文化プログラム

東京2020  
公認文化  
オリンピックアード

**(実施主体)**

組織委員会、国  
開催都市  
会場所在地方公共団体  
公式スポンサー企業  
JOC、JPC

東京2020  
応援文化  
オリンピックアード

**(実施主体)**

非営利団体  
・公益法人  
・独立行政法人  
・左記以外の  
地方公共団体

beyond2020  
プログラム

**(実施主体)**

公式スポンサー  
以外の企業

# 各プログラムの例

## 東京2020公認 文化オリンピック

### ●「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」京都プログラム 文化会議分科会 「文化資源で未来をつくる～輝き続ける日本へ～」

日時: 2016年10月19日  
場所: 京都府「ロームシアター京都」  
主催: 文化庁

全国津々浦々での文化プログラムの開催を推進するため、各地の意欲的な取組みについて紹介するとともに、文化プログラムの実施を通じて創出すべき文化的レガシー等について議論。シンポジウムにあわせて、車いすダンスの公演、小学生とアイドルグループの合唱、アールブリュット展を実施。



### ●「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」東京プログラム 文化会議分科会

#### 「ここから - アート・デザイン・障害を考える3日間」

日時: 2016年10月21日～23日  
場所: 東京都「国立新美術館」  
主催: 文化庁

障害のあるアーティストが生み出す作品からなる展覧会等を通じて、障害の有無に関わらず調和して生きる取組を紹介。

## 東京2020応援 文化オリンピック

### ●東京オリンピック・パラリンピックに向けた 障がい者アートフェスタ2016

日時: 2016年10月30日  
場所: 鳥取県「米子コンベンションセンター」  
主催: 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟

東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの中で、障がい者の芸術文化活動を振興するため、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟」が設立され、そのキックオフイベントとして開催。本連盟に所属している地方自治体や海外あの方障がい者アートの発表や、障がいのあるプロのヴァイオリンコンサートを実施。

### ●京都: Re-Search ひとと地域とアーティスト ～アーティスト・イン・レジデンスの位置づけ～

日時: 2016年12月4日  
場所: 京都府「京都リサーチパーク サイエンスホール」  
主催: 舞鶴アーティスト・イン・レジデンス実行委員会

地域でレジデンス事業があること(アーティストがいることのよさ)の意義とアートを地域活性化に結びつける環境整備やコーディネートなどの方法論や、地域の側としての活用の事例紹介等、現代におけるアーティスト・イン・レジデンスの有益な活用について議論。

## beyond2020 プログラム

### ●「大相撲beyond2020場所」

日時: 2016年10月4日  
場所: 東京都「両国国技館」  
主催: 公益財団法人日本相撲協会

日本文化の体現者たる「相撲」の国際発信力や障害者のアクセシビリティを強化するべく、両国国技館の枱席を外国人客で埋め尽くし、外国語対応が可能な和装スタッフによる対応、英語による解説などを配した特設イベントを実施。プロジェクトを通じ多様性に応じた導線のあり方、座席位置、案内等の運営検討、実証的データを整備するとともに、日本文化や大相撲の魅力国内外に発信。

○場内放送を、日本語・英語の2か国語で実施すると共に、パンフレットも日英併記したものを配布。



○手話による説明やモニターを設置。聴覚障害者の方は聴導犬とともに観戦。



**文化庁から申請した文化プログラムの認証状況について**  
 東京2020公認文化オリンピックにおける取組(文化庁主催)

H29.3.29現在

※地方自治体等との共催を含む。

No.	事業名	概要	開催期間	開催地	実施場所
1	文化庁芸術祭主催公演 オープニング「日本の四季」	文化庁芸術祭のオープニングイベントとして、邦楽・沖縄芸能・雅楽・日本舞踊の4ジャンルからなる華やかな伝統芸能を上演する。	10月1日	東京都千代田区	国立劇場
2	文化庁芸術祭主催公演 10月歌舞伎公演 「仮名手本忠臣蔵」【第一部】	赤穂浪士の討ち入り事件を題材にした「仮名手本忠臣蔵」を上演する。	10月3日 ～ 10月27日	東京都千代田区	国立劇場大劇場
3	文化庁芸術祭主催公演 アジアオーケストラウィーク(東京公演)	アジア地域のオーケストラとの交流を図り、アジア人による西洋音楽のスタンダードモデルの確立を目的に東京公演を実施する。	10月5日 ～ 10月7日	東京都	東京オペラシティ
4	文化庁芸術祭主催公演 現代舞台芸術公演オペラ公演(ワルキューレ)	フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力の下、世界トップクラスの指揮者、歌手、オーケストラが最高水準の公演を創造する。	10月2日 ～ 10月18日	東京都	新国立劇場
5	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 文化会議分科会 「文化芸術資源で未来をつくる～輝き続ける日本へ～」	全国で文化プログラム実施を促進するためのキックオフイベントとして、各地の意欲的な取組の発表を行い、レガシーの創出等について議論する。	10月19日	京都市	ロームシアター京都
6	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて	文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向け、障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に係る活動をテーマとしたシンポジウムを実施する。	10月21日	東京都	国立新美術館
7	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 「ここから-アート・デザイン・障害を考える3日間-」	障害のあるアーティストが生み出す作品からなる展覧会等を通じて、障害の有無に関わらず調和して生きる取組を紹介する。	10月21日 ～ 10月23日	東京都	国立新美術館
8	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム バリアフリー映画上映等実施・運営業務	聴覚障害者用のバリアフリー日本語字幕、視覚障害者用の音声ガイドを付して映画を上映する。併せて、バリアフリー映画に対する理解を深めるためのシンポジウムを実施する。	10月22日	東京都	国立新美術館
9	国民文化祭・あいち2016	国民文化祭の愛知大会では「愛故知新～伝統を「愛」(いつく)しみ、新しきを「知」り、文化は動く～」のテーマの下、関連イベントを実施する。	10月29日 ～ 12月3日	愛知県	愛知県芸術劇場
10	国民文化祭・あいち2016 「食文化シンポジウム」	生活文化に深く関わる食文化を見つめなおし、海外に誇るべき日本の食文化への理解促進を図るためのシンポジウムを実施する。	11月16日	東京都	浜離宮朝日ホール
11	文化庁メディア芸術祭20周年企画展 —変える力	「変化」をキーワードに、これまで20年間の歩みを振り返りつつ、作品が持つ「変える力」に焦点を当てることで、メディア芸術の未来について考察する。	10月15日 ～ 11月6日	東京都	アーツ千代田3331

東京2020公認文化オリンピックにおける取組(文化庁主催)

H29.3.29現在

※地方自治体等との共催を含む。

No.	事業名	概要	開催期間	開催地	実施場所
12	文化庁メディア芸術祭新潟展 「記憶と記録のモノ漕り」	優れたメディア芸術と優秀なアーティストに接する機会を提供することによって、メディア芸術の理解を深め、発展に資することを目的とする。	10月10日 ～ 10月30日	新潟市	COXMIXビル
13	「実演芸術連携交流事業」シンポジウム 『実演芸術で世界とつながる～アジアのオーケストラの事例から』	アジアオーケストラウィークとの協力により国内外の芸術団体・劇場・音楽堂等の専門家同士の情報共有とネットワーク形成を目指すシンポジウムを実施する。	10月6日	東京都	東京オペラシティ
14	文化芸術創造都市推進事業 「自治体サミット」	文化芸術を核に地域づくりに取り組む地方自治体の先進的な取組を紹介するシンポジウムを実施する。	10月19日	京都市	京都市勤業館
15	危機的な状況にある言語・方言サミット (奄美大会)・与論	危機的状況にある言語・方言の状況改善につなげることを目的とした大会を実施する。	11月13日	鹿児島県他	与論町総合体育館
16	神社・仏閣・能楽堂などを活用した実演 芸術拠点の形成プロジェクト(和の空間 を活用した伝統文化発信)	神社・仏閣・能楽堂などを活用した地域の芸能を活かした実演芸術の鑑賞機会を提供する。	12月4日 ～ 12月18日	那覇市、 新潟市、 東京都	波上宮他
17	とちぎの元気を世界に！～とちぎ版文化 プログラムを考える～	とちぎの文化資源の発掘・育成し、とちぎ版文化プログラムへの参加協力を促し、県内各地での文化による地域づくりの方向性を議論する。	12月21日	宇都宮市	栃木県総合文化センター
18	文化プログラムシンポジウムin新潟	地域固有の文化プログラムづくりを推進し、地域ごとに文化プロデュースを担う人材の発掘を目的としたシンポジウムを実施する。	12月18日	新潟市	りゅーとぴあ新潟 市民芸術文化会館
19	未来を担う美術家たち 19thDOMANI・明 日展 文化庁芸術家在外研修の成果	文化庁新進芸術家海外研修制度により海外の機関・作家のもとで研修した新進芸術家たちの展覧会を実施する。	12月10日 ～ 2月5日	東京都	国立新美術館
20	文化プログラムシンポジウムin大阪	官民連携で地域文化発信を目的としたシンポジウムを実施する。	3月2日	大阪市	国立文楽劇場
21	東アジア文化都市2017京都オープニ ング関連事業	日中韓3か国の東アジア文化都市が文化交流を行うとともにさまざまな文化芸術イベント等を実施する。	2月18日 ～ 3月19日	京都市	ロームシアター京 都メインホール
22	東アジア文化都市2017京都(平成29年 度事業分)	日中韓3か国の東アジア文化都市が文化交流(アーティストの相互派遣)を行うとともに現代美術、舞台芸術、マンガアニメなどの文化芸術イベントを実施する。	4月1日 ～ 11月19日	京都市	ロームシアター京 都メインホール

※東京2020応援文化オリンピックについては、対象外のため該当なし

**b e y o n d 2 0 2 0プログラムにおける取組 (文化庁主催)**

H29.3.29現在

※地方自治体等との共催を含む。

No.	事業名	概要	開催期間	開催地	実施場所
1	文化プログラムシンポジウムin大阪 (再掲)	官民連携による地域文化の発信や文化資源の産業化に関するシンポジウムを実施する。	3月2日	大阪市	国立文楽劇場
2	フライデー・ナイト・ミュージアム@上野	美術館・博物館が連携し、夜間開館を活用したナイトプロジェクトを実施することで新たな文化発信拠点・観光拠点としての活用を目指す。	2月24日 ～ 3月31日	東京都	東京国立博物館、国立西洋美術館、国立科学博物館、上野公園一帯
3	芸術系大学連携による人材育成型アートプロジェクト	地域社会と協働しながら文化プログラムを企画実施する人材を育成するためのプロジェクトを全国芸術系大学コンソーシアムと連携して実施する。	1月23日 ～ 6月30日	東京都、 熊本市、 気仙沼市	文化庁ほか

# 2020年に向けた工程表

2020年までに20万件のプログラム実施

## キックオフ期間

### 文化プログラムの実施

- ・東京2020公認文化オリンピックアードの開始(10月～)
- ・WFSCにおいて、2020年に向け、文化振興の機運を高め、文化による国づくりに一丸となって取り組んでいくことを宣言(通称:京都宣言)
- ・beyond2020プログラムの開始(12月～)

## 全国展開・拡大期間

### 文化プログラムの本格展開

- ・東京2020応援文化オリンピックアードの本格開始
- ・文化芸術立国実現のための基盤となる戦略的な文化プログラムを実施
- ・地方公共団体等が実施する新たな文化振興モデルによる取組を推進(文化×観光等)
- ・文化プログラムの情報を集約・発信する文化情報プラットフォームの構築・運用等
- ・オリンピック・パラリンピックイヤーの前年にプレイベントを実施
- ・認証件数の増加、大会機運の醸成

## オリンピック・パラリンピックイヤー

東京2020フェスティバル(組織委員会)と連動したインパクトのあるプロジェクトを実施

「文化芸術立国の実現を加速する文化政策(答申)」のとりまとめ

レガシーとして  
継続

文化芸術立国の実現

2016年

2017年

2018年

2019年

2020年

8月

10月

リオ大会

スポーツ文化ワールド  
フォーラム(WFSC)

明治150年関連施策

9～11月

ラグビーワールド  
カップ

4月～ 7～8月

東京2020フェ  
スティバル(仮称)

東京大会

# 文化芸術立国実現に向けた文化プログラムの推進

(28年度予算額 317億円)

29年度予定額 329億円

## 趣旨

文化芸術立国の実現に向け、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機会を活かし、地域の文化芸術活動への支援等を通じて多様な文化芸術の発展や文化財の活用を図り、もって文化プログラムの推進を図る。

## 【文化芸術の振興に関する基本方針(平成27年5月閣議決定)】

文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地域の文化を体験してもらうための取組を全国各地で実施する。リオ大会の終了後にオリンピックムーブメントを国際的に高めるための取組を行い、文化プログラムの実施に向けた機運の醸成を図る。

## 文化プログラムの取組

### ■文化庁が主催するプロジェクト

- ✓文化庁主催による公演・展覧会・シンポジウム
- ✓文化芸術立国実現のための基盤整備に関する取組 等

### ■地方公共団体、民間が主催する取組を文化庁が補助するプロジェクト

- ✓劇場や博物館、芸術団体等による公演や展覧会等への支援
- ✓文化財や文化芸術による地域活性化に関する事業への支援 等

### ■地方公共団体、民間等が主体的に取り組むプロジェクト

- ✓地域のお祭り等、全国津々浦々で実施される草の根的な取組を情報発信

## 29年度予定額（主な事項）

### 1 国が地方自治体、民間とタイアップした取組の推進 323億円

- ①文化庁が主体の取組  
・「文化庁芸術祭」、「文化庁メディア芸術祭」、「国民文化祭」、「全国高等学校総合文化祭」等を主催
- ②地方公共団体や民間が主体の取組  
・地域の文化芸術資源を磨き上げ活用する取組や、芸・産学官連携による持続的な地域経済の発展や社会的包摂の取組などへの支援  
・芸術団体等によるトップレベルの舞台芸術活動等への支援  
・芸術文化の世界への発信への支援 等

### 2 文化プログラム推進のための基盤整備(一部再掲) 9億円

- ①国立文化施設の機能強化  
・訪日外国人向けの鑑賞・体験事業、多言語による解説・案内板の整備、国外への情報発信の強化  
・夜間開館の拡充
- ②多言語対応等による訪日外国人対応等  
・公立、私立の美術館・博物館、地域の劇場・音楽堂等における訪日外国人向けの鑑賞・体験事業、多言語による解説・案内板の整備、外国語対応可能なボランティアの育成等

## スケジュール

2016年 8月 10月

リオ大会

スポーツ文化ワールドフォーラム

### 文化プログラムの実施

- ・文化庁芸術祭
- ・文化庁メディア芸術祭
- ・国民文化祭
- ・瀬戸内国際芸術祭
- ・あいちトリエンナーレ 等

「文化芸術立国」構想の検討・発信

2017年4月

### 文化プログラムの本格展開

- ・文化芸術立国の実現に向けた文化プログラムを実施
- ・地方公共団体等による取組を支援
- ・文化プログラムの情報を集約・発信する文化情報プラットフォームの構築 等

2019年

ラグビーワールドカップ

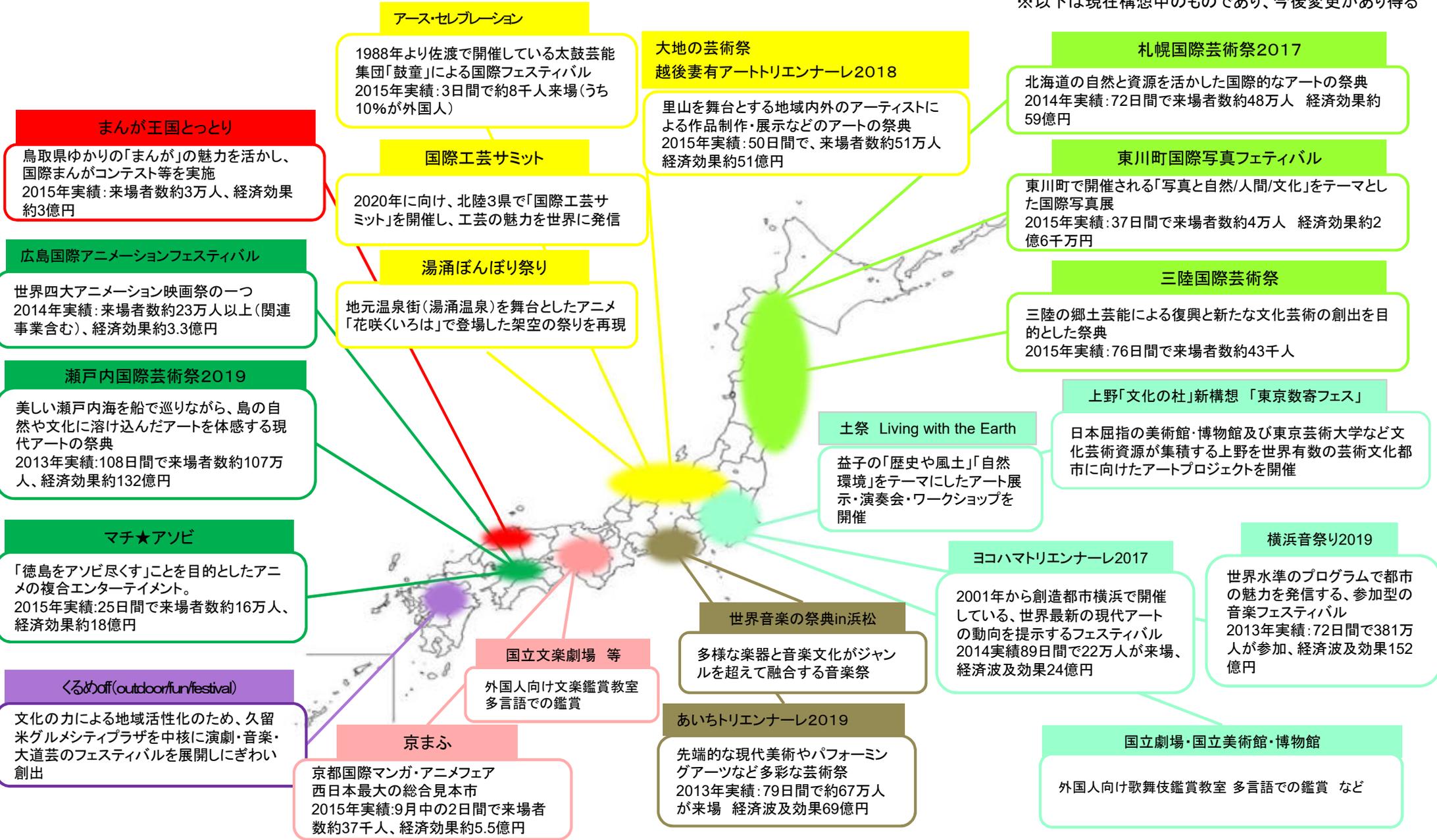
2020年

東京大会

文化芸術立国の実現

# 全国で行われる文化プログラムのイメージ

※以下は現在構想中のものであり、今後変更があり得る



# 参考：2012年ロンドン大会における文化プログラム

## 【文化プログラム開催概要】

時期：北京五輪終了後(2008年9月)からロンドン五輪終了時(2012年9月)まで

場所：英国全土で1,000箇所以上

イベント総数：約11万7千件(音楽、演劇、ダンス、美術、文学、ファッション、映画、展示会、ワークショップ等)

参加アーティスト：40,464人(うち6,160人が若手アーティスト、806人が障害のあるアーティスト)

総参加者数：約4,340万人

実施団体：組織委、アーツカウンシルイングランド、文化・メディア・スポーツ省(国)、ロンドン市、レガシートラストUK、その他自治体等

メジャー・プロジェクト例：世界シェークスピアフェスティバル(シェークスピアの戯曲を37カ国による37の異なる言語で実演)

アンリミティッド(身体に障害のあるアーティストによる上演・展示)

## 【文化プログラムによる効果】

### ① 文化レベルの向上

- 新たな作品の創造(5370作品の誕生)、文化、企業、教育、自治体等の**新たなパートナーシップの誕生(10,940)**
- 文化プログラムで創出されたプロジェクトの半数が2012年以降も継続(ファンディング等により)

### ② 幅広い層への文化活動への参画

- 参加者4,340万人。参加者やメディアにおける高い評価。参加者アンケートで8割以上が期待以上と回答

### ③ 観光産業への貢献

- 外国人観光客の集客は、**2012年から2013年で約5.2%の伸び率**
- 2012年の英国の国のブランドランキングでは、文化関連の項目の評価が向上(1ポイント)したことにより、**英国は順位を1つ上げて4位に(ロンドンのブランドランキングは、2012年に1位に)**

### ④ 自国文化の誇り、自信の掲載等

- 81%の英国国民が、五輪大会と文化プログラム等の関連イベントを通じ、より自国を誇りに思うようになったと回答
- 子ども・若者の精神面やスキル形成にプラスの影響(40%のプロジェクトが子ども・若者をターゲットに。参加者の61%は18歳以下)
- 障害者への理解、障害者アーティストの活躍の推進(806人の障害者アーティストが参加、著名な文化施設等で障害者作品の展示・公演の機会が促進)

## 【2つのプログラム】

プログラム	カルチュラルオリンピアド(Cultural Olympiad)	インスパイア・プログラム(Inspire Program)
概要	<p>「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム</p> 	<p>多くの人々にロンドン大会の一部を担ってもらうためのプログラム。大会にインスパイアされて実施される優れた非営利プロジェクト</p> 